

平成 25 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名

角谷 常子

最終学歴	京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学	
取得学位	博士(文学)	
所属学会	東洋史研究会・日本秦漢史学会(副会長)・中国出土資料学会・史学研究会・東方学会・木簡学会(役員)	
専門分野	中国古代史	
研究課題	文字史料から見る古代社会	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋史特殊講義 ・東洋史史料実習 ・東洋史演習 ・東洋史講読 ・東洋史概論 ・史学研究法
	大学院修士課程担当科目(博士前期課程含)	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋史学特殊講義 ・ ・
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋史概論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	平成21年度～25年度科学研究費補助金(基盤研究(A))「東アジア木簡学の確立」(代表者)『古代文化』編集委員	
【教育上の特記事項】		
【社会的活動】	JASS講演 2013年6月1日「食文化にみるヨーロッパとアジア」 2013年9月28日「孔子が学んだ書物」 2013年11月2日「中国近世の庶民文化～「清明上河図」を読む～」 2014年2月15日「つながりの形～会盟・一揆・華僑～」(以上いずれも大阪)	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	国際交流委員、広報担当、人事委員、大学院運営委員	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①『東アジア木簡学のために』	共著	2014年3月	奈良大学	木簡を東アジア全体で議論できるようにするために、まずは戦国から秦、漢そして三国時代と連続して木簡が出土している中国における木簡使用の変遷とその意味を検討した。
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学会発表)				
①木簡使用の変遷と意味	単著	2013年8月31日・9月1日	「東アジア木簡学の確立」国際シンポジウム・於奈良大学	戦国から三国にかけて、中国における木簡使用の変遷とその意味を考察した。厳格な運用から方の力が抜けた成熟期へ、さらに新たな人的関係が窺えることを述べた。
②夫婦という関係	単著	2014年3月	シンポジウム「中国古代のジェンダー構造」・於東洋文庫	滋賀秀三氏の論考を基礎に、夫婦のとらえ方を整理し、その問題点を指摘した。
③				
④				
⑤				
(その他)				
①				
②				
③				
④				
⑤				